

交流及び共同学習に関する調査（2）

—静岡県内の特別支援学校における学校間交流及び居住地校交流の実態調査—

○西村 崇宏* 久保山 茂樹* 井上 久美子** 定岡 孝治* 齊藤 由美子* 小澤 至賢*

* 国立特別支援教育総合研究所 ** 静岡県立西部特別支援学校

KEY WORDS: 交流及び共同学習 特別支援学校 静岡県

1. 背景及び目的

静岡県では、平成 18 年に「静岡県立特別支援学校における交流及び共同学習実施指針」が示され、交流及び共同学習の推進が行われてきた。こうした背景の下、国立特別支援教育総合研究所では、静岡県における交流及び共同学習の実態把握及び推進に必要な要因の検討を目的として、県内の特別支援学校を対象とした交流及び共同学習に関する調査を行った。本稿では、本調査の結果を報告する。

2. 方法

(1) 調査対象 調査対象は、静岡県内にある国立及び県立の特別支援学校（分校・分教室含む）39 校であった。

(2) 手続き 調査用紙は、郵送によって送付・回収を行った。調査期間は平成 28 年 8～9 月であった。

(3) 調査項目 調査項目は、学校の基本情報、学校間交流及び居住地校交流に関する実施状況や成果と課題、居住地校交流の事前打ち合わせや事後学習、評価などについて尋ねた。これらの調査項目の選定は、先行研究や調査協力機関へのヒアリングを参考に行った。

(4) 倫理的配慮 本調査は、国立特別支援教育総合研究所に設置された倫理審査委員会の承認を得て実施した。また、調査対象となる特別支援学校には、静岡県教育委員会を通じて、調査協力および本稿での調査結果の公表に関する同意を得た。

3. 結果及び考察

本章では、調査で得られた結果を一部抜粋して示す。

(1) 回収状況 回収率は 100% であった。設置学部ごとの回答校数及び在籍幼児児童生徒数は、幼稚園が 6 校 (39 人)、小学部が 29 校 (1,705 人)、中学部が 29 校 (1,024 人)、高等部が 31 校 (1,949 人) であった。以下で示すデータは、上記の数値を有効回答数として算出した。

(2) 交流及び共同学習の実施状況 図 1 に、学校間交流及び居住地校交流を実施している幼児児童生徒数の割合を学年ごとに示す。全国の特別支援学校を対象として、本調査と同時期に実施した全国調査の結果と比較すると、学校間交流の実施率は全体的に高い。とりわけ、高等学校内設置分校における学校間交流の推進も一助となり、高等部での実施率は高い水準にある。一方、小学部 1 年生での居住地校交流の実施率は低い。このことについて、学校現場の教職員にヒアリングを行った結果、「小学部低学年では学校生活の安定を優先させるため、交流及び共同学習は積極的には実施しない」との回答があった。特別支援学校では、入学前に地域の幼稚園や保育園に在籍していた児童もいるため、就学前に構築された子ども同士の繋がりを維持する

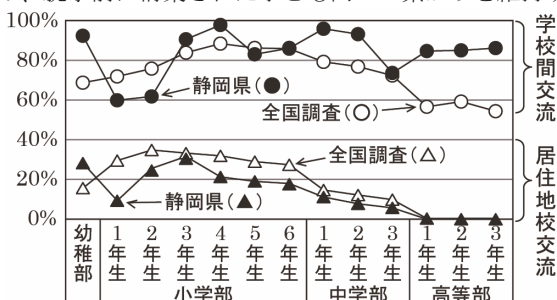


図 1 学年ごとの交流及び共同学習の実施率

意味でも、小学部低学年での交流及び共同学習の在り方については、検討の余地があると考えられる。

(3) 交流及び共同学習の成果と課題 図 2 及び図 3 に、交流及び共同学習の実施によって得られた成果と課題を示す。学校間交流と居住地校交流ではねらいや役割が異なる部分もあるため、成果や課題の傾向も相違していることがわかる。課題をみると、学校間交流と居住地校交流のいずれにおいても「相手校の意識・理解」や「相手校の受け入れ態勢」が高い割合を示しているが、各学校においては、前年度中に次年度の実施計画を立案し、相手校と調整することで円滑な実施に努めるなどの工夫がなされていた。

4. おわりに 本稿では、静岡県における交流及び共同学習に関する実態調査の結果を報告した。調査結果及び全国調査との比較を通じて、交流及び共同学習をより一層推進させるための課題や、各学校で課題改善に向けて取り組んでいる工夫などが明らかになった。なお、交流及び共同学習の推進にあたっては、教育行政による仕組み作りも重要である。副次的な学籍の導入など、各市町村の状況に応じた取組を検討していくことも大切であると考えられる。

謝辞

本研究は、国立特別支援教育総合研究所の平成 28 年度地域実践研究「交流及び共同学習の推進に関する研究」（指定研究協力地域：静岡県、地域実践研究員：井上久美子）において実施されたものである。本研究の遂行にあたり、多大なご支援をいただいた静岡県教育委員会及び静岡県内特別支援学校の関係者の皆様に厚く謝意を申し述べます。

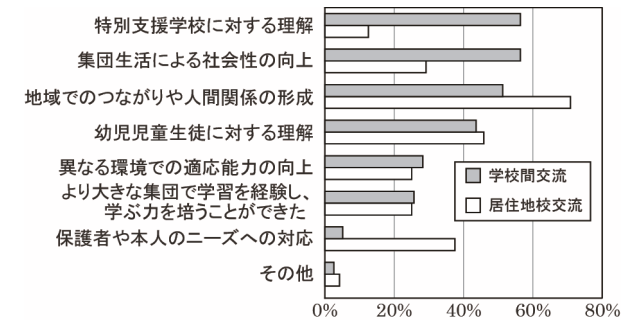


図 2 交流及び共同学習の成果 (3つ選択式)

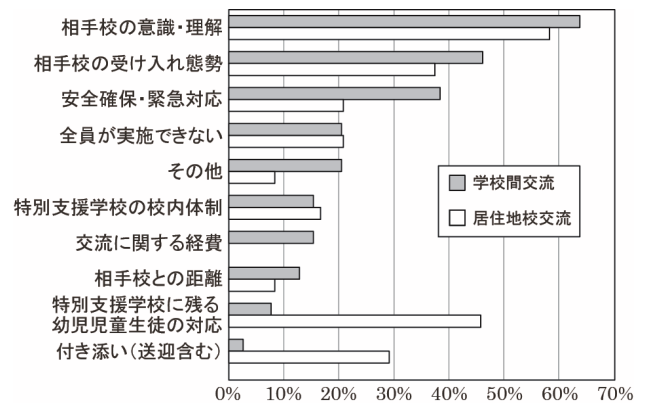


図 3 交流及び共同学習の課題 (3つ選択式)

(NISHIMURA Takahiro, KUBOYAMA Shigeki, INOUE Kumiko, SADAOKA Koji, SAITO Yumiko, OZAWA Michimasa)